

朝河発信書簡(和文)

ID	整理記号	受信者	発信年	月	日	和暦	消印年	月	日	封筒	書簡内容	注記	他資料掲載
1	A-11-4	高橋春吉	1893	10	16	明治26年	1893	10	16	有	依頼されていた書籍を送ったことを連絡。師範学校の卑屈極まる教員生徒に対する不平を漏らし、真理とは何か、真理の人についての考えを述べている。	自筆原本	L-4
2	A-11-5	高橋春吉	1894	2	10	明治27年	1894	2	9	有	急速な時代の流れに教育社会が遅れていることに対し、教員たちに同志を作り互いに感化し練磨することを説いている。受け取った切手を両替したことの報告。	自筆原本	L-5
3	A-11-6	高橋春吉	1894	5	22	明治27年				有	上京した父・正澄から、春吉についての慶事と凶事を一度に聞いたこと。春吉の結婚を祝し、病気を慰藉する。	自筆原本 上京した父に託したため 封筒に消印なし	L-6
4	A-11-7	高橋春吉	1895	10	3	明治28年	1895	10	4	有	写真を渡す約束していたが写真を撮りたくない気持ちであること。渡航準備の不足額はまだわからないがなんとしても行く覚悟でいること。福島新聞に記事の取り消しを求めたこと。朝倉鉄蔵・卯八父子についてなど、とりとめのないことを書き綴っている。	自筆原本	L-13
5	A-11-8	高橋春吉	1895	10	8	明治28年	1895	10	8	有	福島新聞の記事が取り消されたかどうか気にかかっていること。旅券下附願いを出したこと。諸費は節約し夏服は仕立せずフロック・コートは和服で代用のつもりだが、それでも金が不足しそうで心配なこと。できれば今月下旬に出航したい思っていること。	自筆原本	L-14
6	A-11-9	高橋春吉	1895	10	22	明治28年	1895	10	22	有	手紙と為替券に対する御礼。中桐と朝倉の衝突について心を痛めていること。いくら不足かもわからず、いつ出帆できるかもわからない状態であること。	自筆原本	L-15
7	A-11-10	高橋春吉	1896	3	12	明治29年	1896	3	15	無	ハノーヴァーでの住所と近況報告。当地はとても寒いのが、健康で元気なので安心してほしい。万事が面白い。日本人のような差別や批判的なことがなく誰もを受け入れる気風である。会話はさほど不自由はない。	自筆はがき原本 飯野局配達は4月11日	L-17
8	A-11-11	高橋春吉	1898	3	24	明治31年	1898	3	25	有	多忙で長い間連絡をしていなかったことを詫び近況を伝える。健康で学問も面白く不自由に思うことなく過ごしていること。偶然、故郷を思い出しては懐かしく感じる。日露戦争を予見した日本の対外方針についての考えを『国民之友』に投書すること。この地にて勉強して2年が経つこと。	自筆原本	L-19
9	A-11-12	高橋春吉	1899	9	21	明治32年	1899	9	22	無	転居報告。イェール大学の大学院部に移ったことを知らせ、新しい住所を記している。	自筆はがき原本	L-26
10	A-11-13	高橋毅	1906	9	20	明治39年	1906	9	20	無	父・正澄が急病にかかり危篤であることを伝える。	毅(はたす)は春吉の改名後の名前 自筆はがき原本	L-37
11	A-11-14	高橋毅	1906	10	2	明治39年	1906	10	3	無	父・正澄の葬儀後、二本松の家を片付け、9月30日に東京へ戻ったことを伝える。今は多忙であることがありがたいと記している。	自筆はがき原本	L-38
12	A-11-15	高橋毅	1907	10	13	明治40年	1907	10	14	無	8月7日に日本を出帆した後、無事に9月にアメリカに到着したことを伝える。教授及び勉強に余念がないので、安心してほしいと記している。	自筆はがき原本	L-41

凡例

- 1 この目録は、2024年1月に寄贈受入した「朝河貫一資料」12点を収録したものである。
- 2 整理記号の「A」は朝河発信書簡(和文)である。
- 3 他資料掲載の記載形式「L-(書簡番号)」は、『朝河貫一書簡集』(朝河貫一書簡集刊行会, 1991)である。
- 4 目録内に登場する人名・資料名については、基本的に書簡内の表記に準じた。
- 5 書簡内容は、当館職員が執筆した。